

教育課程研究指定校事業実施計画書（平成29年度）
—研究課題2(4) ESD—

都道府県・指定都市番号	60	都道府県・指定都市名	大阪市
-------------	----	------------	-----

1 研究指定校の概要

ふりがな 学 校 名	おおさかし りつみなみしょうがっこう 大阪市立南 小学校						ふりがな 校長氏名	やまざき かずと 山崎 一人
所 在 地	〒542-0083 大阪府大阪市中央区東心斎橋1-14-29 電話 06-6252-6825 FAX 06-6252-6871 e-mail g1131@city-osaka.ed.jp							
(H29.4.1見込)	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	(H29.4.1見込。臨時の任用の者は常勤の者のみ含む) 教員数 20名
学 級 数	1	1	1	1	1	1	6	
児 童 数	27	25	33	29	31	32	177	
特記事項	日本語指導教室・ことばの教室（通級学級）・特別支援学級を校内に設置							

2 研究主題

学校における研究主題	学びに向かう力の育成をめざして～未来を見つめる心を育む～
------------	------------------------------

3 平成28年度の成果と課題

<成果>
○ 教科横断的な学習活動を組み立てたことにより、教科学習の中にESDの価値観や身に付けていきたい力や態度を見いだすことができた。
○ 「一次：関心の喚起⇒二次：理解の深化⇒三次：参加する態度・問題解決能力の育成⇒四次：具体的な行動につながる学習活動」のように、学習活動を構成したことで、児童の主体的・協働的な学びの実現につながった。
○ 当事者意識を育む学習活動計画を開発することができた。
○ 本校の特色を活かした「世界とのつながり」の学習活動を開発することができた。
○ ESDの評価について、一定の方向性を見いだすことができた。
<課題>
○ 効果的な教科横断的な学習活動を組み立てるためには、年間の学校行事や各教科等の指導計画を見通して学習活動を計画する必要がある。
○ 開発した学習活動計画に継続的して取り組むことができるよう、使用した資料や連携した団体やゲストティーチャーなどに関する情報を共有する必要がある。
○ それぞれの学習活動に適したワークシートを作成し、自己評価の項目について精度を上げる必要がある。
○ 児童が様々な意見の中から新たな考えを構築する力を身に付けるために、どのような場面設定が適切であるかについて考える必要がある。

4 平成29年度の研究計画

(1) 本年度の調査研究の重点等

①研究内容

ESD を学校全体で体系的に推進するために各教科の連携により、持続可能な社会づくりに課題を見いだし、それらを解決するために必要な力や態度を児童に身につけさせるための教育課程の編成、指導方法・評価などの工夫改善に関する実践研究

『めざす子ども像』

様々なちがいを超えてつながり、地球的視野に立って主体的に行動する子ども

②研究方法

1. みなみ ESD プロジェクトの実施

上記の（めざす子ども像）を念頭に置き、研究の成果と課題の指標となる研究の視点と重点課題に即した「国際理解教育プロジェクト」「地域学習プロジェクト」の2つの学習活動の実践を通して、研究主題に迫るようにする。

国際理解プロジェクト

世界の様々な国々の文化や習慣に対する興味関心を養い、異なる文化背景をもつ人々との協働作業に取り組もうとする態度を育む。低・中学年においては、日々、ともに学校生活を送っている友だちの文化的・習慣的な差異を科学的にとらえ、理解する学習活動をすすめる。高学年においては、世界で起きている様々な課題に目を向け、すべての人々が安心して暮らせる社会の実現に向けて、自分たちにできることを模索しようとする態度を育む。

地域学習プロジェクト

自分たちの町の特徴を知り、地域の人々が守り育ててきたものや思いを知ることを通して、自分たちの町に愛着をもち、自分たちが将来の町の担い手となることを意識できるようにする。これまで、地域の人々とともに積み重ねてきた学習の持続的な発展をめざす。

研究の視点① 主体的・協働的に課題発見・解決することができる力を育む学習活動

研究の視点② 思考を深めるための効果的な言語活動のあり方

2. ESD カレンダーの作成

・昨年度作成した ESD カレンダーをもとに、教育課程の見直しをはかる。

3. ESD で身につけたい能力・態度を育むための学習指導法の工夫改善をはかる。

③H29年度研究の重点

○みなみ ESD プロジェクトの実施

- ・教科・領域等でめざす学習目標との整合性を図りながら、教科横断的な学習活動に取り組む。
- ・昨年度の実践を再構築し、学習活動の精度を向上させる。
- ・「3つのつながり」を意識した学習活動計画を立案する。特に、「能力・態度のつながり」に對しては、昨年度よりもねらいを明確にするようにする。

○ESD の評価のあり方

- ・みなみ ESD プロジェクトの学習到達目標を整理し、評価規準を明らかにする。
- ・ルーブリック評価を中心に、ポートフォリオ評価やパフォーマンス評価などを取り入れ、子どもの思考の変化をつかむ

○思考力を育む学習活動のあり方

- ・子どもの思考が深まる発問や、一人一人の意見が活かされる話し合い活動など、思考を深めるための効果的な言語活動のあり方についての研究を深め、授業改革を推進する。

(2) 研究計画

実施時期	研究内容、研究方法、成果の公開等	期待される成果等
1 学期	<ul style="list-style-type: none">○研究全体会<ul style="list-style-type: none">・1年次の研究成果に基づいて、今年度の研究の方向性についての共通理解を図る。○ESD 研修会<ul style="list-style-type: none">・本校の教育課題を踏まえた ESD に関する知識理解を深める。○授業研究会、研究討議会の実施<ul style="list-style-type: none">・1年次末に見直しされた ESD カレンダーに基づいた学習活動計画を立案し、実施する。○研究全体会<ul style="list-style-type: none">・1学期に実施した授業研究における成果と課題を共通理解する。	<ul style="list-style-type: none">・1年次の研究における課題を共通理解できる。・ESD に対する認識を深める場をもつことができる。
2 学期	<ul style="list-style-type: none">○指導案検討会（公開授業）<ul style="list-style-type: none">・昨年度の研究成果をもとにして、公開授業に向けての学習活動計画の精度の向上を図る。○公開授業・研究発表<ul style="list-style-type: none">・昨年度実施案を再構築する。・研究の視点に基づいて立案された授業を公開する。・2年間の研究の成果と課題の報告を行う。	<ul style="list-style-type: none">・新たな視点で再構築することで、授業の精度をあげができる。・2年間の研究成果を多くの人と共有することができる。
3 学期	<ul style="list-style-type: none">○研究成果の報告会を行う。<ul style="list-style-type: none">・大阪市における区の教員研究発表の場で研究成果の報告を行う。・国立教育政策研究所 研究協議会において研究報告を行う。○研究全体会<ul style="list-style-type: none">・2年間の研究の総括を行い、ユネスコスクール加盟に向けた次年度以降の教育課程の編成についての共通理解をはかる。	<ul style="list-style-type: none">・2年間の研究成果を多くの人と共有することができる。・2年間の研究を振り返り、共通理解を図ることで、次年度以降の研究にいかすことができる。

5 研究のまとめの見通し

○研究のまとめ

- ・ESD の視点に立った学習指導に対する職員間の共通理解が図られ、日々の学習活動においても ESD の視点に立った学びが実践される素地を育むことができる。
- ・学校の特色、地域の特性を活かした学習活動計画の立案を学校全体で取り組むことによって、学習効果の高い教育課程を編成することができる。
- ・明確な学習到達目標のもと、学習の見通しを指導者と学習者の双方で共有しながら、学習活動を進めることによって、主体的な学びが生まれ、学習に対する意欲を高めることができる。
- ・ESD で身につけたい力や態度を意識した学習活動を計画し、授業を実施していく中で、指導者の授業改善が図られ、指導力の向上につながる。
- ・国際理解教育や地域学習に全校で取り組むことによって、本校の教育課題でもある「多文化」を肯定的にとらえる態度を育み、個々の「ちがい」が活かされる学校文化が醸成される。
- ・多文化共生をめざす学校文化を発信することができる。

○研究成果の検証方法

- ・児童アンケートや保護者アンケートなど、本校が通常実施しているアンケート項目に ESD の観点を取り入れ、集計する。
- ・学習前後の意識調査を実施し、変化をとらえるようにする。
- ・ESD を専門としている研究者による指導講評をもとに、「様々なかがいを超えてつながり 地球的視野に立って主体的に行動する子ども」を育むための効果的な学習活動計画や授業のあり方についての検証をはかる。